

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本文学	平成24年度	熊澤 美弓	3	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

国語ⅠA・ⅠB・Ⅱの学習を受けて、3年生では、さらに日本語で書かれたさまざまな文章（小説・随想・評論・詩歌等）の読解を通して、社会人として必要な日本語の理解力、および日本語による表現力を身につけさせたい。

[授業の内容]

すべての内容は JABEE 基準 1 (1) の(a)および(f)、学習・教育目標(A)の〈視野〉および(C)の〈発表〉に対応する。

前期

- 第1週 本授業の概容および学習内容の説明
さまざまな文章(一) 夏目漱石の葉書①
- 第2週 随筆 生へのシグナル(武満徹)①
- 第3週 随筆 生へのシグナル(武満徹)②
- 第4週 小説 山月記(中島敦)①
- 第5週 小説 山月記(中島敦)②
- 第6週 小説 山月記(中島敦)③
- 第7週 小説 山月記(中島敦)④
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 前期中間試験の反省
評論 知識の扉—学ぶことの身体性(港千尋)①
- 第10週 評論 知識の扉—学ぶことの身体性(港千尋)②
- 第11週 評論 知識の扉—学ぶことの身体性(港千尋)③
- 第12週 評論 知識の扉—学ぶことの身体性(港千尋)④
- 第13週 表現 人と「もの」をめぐる精神分析
(野田正彰)①
- 第14週 表現 人と「もの」をめぐる精神分析
(野田正彰)②
- 第15週 表現 人と「もの」をめぐる精神分析
(野田正彰)③
表現活動1 意見文を書く

後期

- 第1週 小説 高瀬舟(森鷗外)①
- 第2週 小説 高瀬舟(森鷗外)②
- 第3週 小説 高瀬舟(森鷗外)③
- 第4週 小説 高瀬舟(森鷗外)④
- 第5週 評論 文学のふるさと(坂口安吾)①
- 第6週 評論 文学のふるさと(坂口安吾)②
- 第7週 評論 文学のふるさと(坂口安吾)③
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 後期中間試験の反省
評論 記録すること、表現すること(川田順造)①
- 第10週 評論 記録すること、表現すること(川田順造)②
- 第11週 評論 記録すること、表現すること(川田順造)③
- 第12週 表現 二〇世紀をつくった日用品(柏木博)①
- 第13週 表現 二〇世紀をつくった日用品(柏木博)②
- 第14週 表現 二〇世紀をつくった日用品(柏木博)③
- 第15週 表現 表現活動2 モノを語る—「私のモノ語り」
パネル・ディスカッションをする、年間授業の反省

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本文学（つづき）	平成24年度	熊澤 美弓	3	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>(小説・詩歌)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小説・詩歌作品の文学的な表現に使われる漢字・語句について、正確な読み書きと用法を習得している。 2. 小説のあらすじを把握し、登場人物の心情・行動を理解することができる。 3. 詩歌について、作者の意図を理解し、表現技巧を把握することができる。 4. 小説・詩歌について、鑑賞能力を養い、自分の感想を文章にまとめることができる。 5. 小説・詩歌について、文学史的知識を身につけ、作品が書かれた時代背景を理解することができる。 6. 教材をヒントにして、自分の心情を詩歌作品として表現することができる。 	<p>(随想・評論)</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 随想・評論作品の今日的な表現に使われる漢字・語句について、正確な読み書きと用法を習得している。 8. 随想の持つ表現上の特色を理解することができる。 9. 随想・評論について、作者の意図を理解し、論理の展開を把握することができる。 10. 評論について、各段落、および全体の要旨についてまとめることができる。 <p>(表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 学習したことを踏まえ、相手に説得力をもって自分の言いたいことを伝える感想文・小論文等を書くことができる。 12. 学習したことを踏まえ、パネル・ディスカッションを行うことを通して、「公」の言葉で自らの意思を相手に伝えることができる。 <p>(漢字・語彙)</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 「常用漢字アルファ」に基づき、漢字小テストを年間10回程度実施し、社会人として必要な漢字・語彙力を習得している。
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>社会人としての日本語の理解力・表現力を備え、近現代の日本文化全般に親しむことができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～13を網羅した問題を、2回の中間試験・2回の定期試験と小テスト・提出課題・口頭発表等で出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項] 授業中は学習に集中し、内容に対して積極的に取り組むこと。出された課題は期限を守り、必ず提出すること。</p> <p>なお、第2学年に引き続き、文部科学省認定の「漢字能力検定試験」への積極的な取り組みを奨励する。なお、本教科は後に学習する「文学概論Ⅰ・Ⅱ」「言語表現学Ⅰ・Ⅱ」等の基礎となる科目である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 本教科は、「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」の学習が基礎となる教科である。</p>	
<p>[レポート等] 理解を助けるために、随時演習課題を与え、提出させる。また夏期休業中の宿題として、外部コンクールに応募する、課題図書による読書体験記または定められたテーマによるエッセイを執筆させ、提出させる。</p>	
<p>教科書：「現代文 改訂版」（教育出版）</p> <p>参考書：「クリアカラー国語便覧 第三版」（数研出版）、「四訂版漢字とことば 常用漢字アルファ」（桐原書店）</p> <p>学校指定の「電子辞書」、「国語表現活動マニュアル」（明治書院）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] 前期中間・前期末・後期中間・学年末試験の平均点を60%、小テストの結果を20%、提出課題・口頭発表等の結果を20%として評価する。</p> <p>[単位修得要件] 与えられた課題レポート等をすべて提出し、前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験、課題、小テストにより、学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
線形代数Ⅱ	平成24年度	伊藤(裕)	3	前期	履修単位 1	必

<p>[授業のねらい]</p> <p>工学および自然科学の現象は行列により簡潔に記述できることがある。ここでは、行列式、掃き出し法、行列の固有値・固有ベクトル、行列の対角化について学習する。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての授業の内容は、学習・教育目標 (B) <基礎>および JABEE 基準 1(1)(c)に対応する</p> <p>第1週 行列式の定義</p> <p>第2週 行列式の性質</p> <p>第3週 余因子と行列式の展開</p> <p>第4週 行列式の積</p> <p>第5週 行列式の性質を用いた式変形の演習</p> <p>第6週 逆行列と余因子を利用した求め方</p> <p>第7週 連立一次方程式とクラメルの公式</p>	<p>第8週 前期中間試験</p> <p>第9週 掃き出し法 (連立方程式の解法)</p> <p>第10週 掃き出し法 (逆行列の求め方)</p> <p>第11週 連立同次一次方程式, 階数, 一次独立と一次従属</p> <p>第12週 行列の固有値</p> <p>第13週 行列の固有ベクトル</p> <p>第14週 行列の対角化</p> <p>第15週 対角化に関する様々な演習</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 行列の定義や性質が理解できる。</p> <p>2. 行列式の値を求めることができる。</p> <p>3. 行列式の性質を利用して計算することができる。</p> <p>4. 余因子の定義を理解し, 利用できる。</p> <p>5. 行列の正則条件を理解し, 逆行列を求めることができる。</p> <p>6. クラメルの公式を理解し, 連立一次方程式を解ける。</p>	<p>7. 掃き出し法を使って逆行列や連立一次方程式の計算ができる。</p> <p>8. 階数の計算ができる。</p> <p>9. 行列の固有値・固有ベクトルの定義を理解し計算できる。</p> <p>10. 行列を対角化することができる。</p> <p>11. 一次独立と一次従属について理解している。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>行列・行列式に関する基本事項を理解し, 連立方程式を解くこと, 逆行列を求めることができる。また固有値や固有ベクトルを求め, 行列を対角化することができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～11の習得の度合いを中間試験・前期末試験及び小テスト, 課題により評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。評価結果において平均60点以上の成績を取得したとき目標を達成したと確認できるような試験や課題を課す。</p>
<p>[注意事項] 疑問点は授業中・放課後に質問するなどして, 十分に理解してから次の授業に臨むこと。授業中の演習時間だけでは十分な時間が確保できないので, 授業時間以外の時間において教科書・問題集などの多くの問題を解くように努力すること。本教科は後に学習する数学特講Ⅰ、Ⅱや応用数学Ⅱの基礎となる教科である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 2年次の線形代数の基礎知識。本教科は微分積分Ⅰ、線形代数Ⅰの学習が基礎となる教科である。</p>	
<p>[レポート等] 長期休業中の宿題のほか, 授業中にも適宜小テスト・課題を課す。</p>	
<p>教科書: 高専の数学2 (森北出版)</p> <p>問題集: 新編高専の数学2問題集 (森北出版), ドリルと演習シリーズ 線形代数 (TAMSプロジェクト4編集)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間試験, 前期末試験の2回の試験の平均点を90%, 小テスト・課題等の評価を10%として, それぞれの期間毎に評価し, これらの平均値を最終評価とする。ただし, 前期中間試験の得点が60点に満たない場合は再試験を課し, 再試験の成績が前期中間試験の成績を上回った場合には, 60点を上限として前期中間試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
微分積分Ⅱ	平成24年度	伊藤 清	3	通年	履修単位 4	必

〔授業のねらい〕 2年生に引き続いて、微分積分学の学習を行う。微分積分学は自然科学や工学の学習の基礎となる学問である。前半は1変数の微分について第2学年で扱えなかった内容（逆三角関数・助変数・ n 回微分・平均値の定理等）とテイラー展開について学ぶ。後半途中まで独立変数が2つの関数の微分（偏微分）とその応用について述べる。その後、1変数の関数の不定積分と定積分を復習・補充し、最後に2変数関数の積分（重積分）について学習する。

〔授業の内容〕

すべての授業の内容は、学習・教育目標 (B) <基礎>および JABEE 基準 1(1)(c)に対応する。

前期 (週2回)

- 第1週 2年微分の復習、極値の判定条件
- 第2週 第2次導関数と曲線の凹凸、増減表への応用
- 第3週 逆関数と導関数、逆三角関数
- 第4週 曲線の媒介変数表示と微分
- 第5週 極座標表示と曲線
- 第6週 ロルの定理と平均値の定理
- 第7週 コーシーの平均値の定理、ロピタルの定理
- 第8週 中間試験、等比数列等についての復習
- 第9週 べき級数、収束半径、
- 第10週 高次導関数、関数を近似する2次式の形
- 第11週 関数を近似する n 次式の形、パソコンでの近似の確認、
- 第12週 マクローリンの定理、テイラーの定理
- 第13週 マクローリンの定理の剰余項、テイラー展開
- 第14週 2項展開の復習、その拡張(マクローリン展開との関連)
- 第15週 2変数関数とそのグラフ、2変数関数の極限・連続

後期(週2回)

- 第1週 偏導関数の定義、全微分とその応用
- 第2週 2変数の合成関数の微分、2次曲面とヘシアン の正負
- 第3週 2変数関数の極大と極小の必要条件、十分条件
- 第4週 2変数関数の極値問題の演習、陰関数定理
- 第5週 接線と法線、条件付き極値問題
- 第6週 2年生範囲の積分の復習、逆三角関数の現れる積分
- 第7週 無理関数の積分、分数関数の積分
- 第8週 中間試験、3角関数の分数式の積分
- 第9週 和の極限值としての定積分、微積分の基本定理
- 第10週 媒介変数を使った面積の計算、極座標による面積
- 第11週 回転体の体積の計算、媒介変数で表された曲線の長さ
- 第12週 陽関数や極座標で表された曲線の長さ、広義積分
- 第13週 重積分の定義、重積分と累次積分
- 第14週 積分の順序変更、体積計算への応用
- 第15週 極座標による重積分、広義積分への応用

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
微分積分Ⅱ（つづき）	平成24年度	伊藤 清	3	通年	履修単位4	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1変数関数の微分や積分に関する基礎知識が定着している。 第2次導関数とその曲線の凹凸との関係が理解できる。 曲線の媒介変数表示とその接ベクトルの概念が理解できる。 逆関数の微分公式が理解でき使える。 グラフの極座標表示と直交座標での表示との関係が理解できる。 平均値の定理を理解しロピタルの定理に基づいて極限計算ができる。 べき級数とその収束半径が理解できる。 高次導関数が計算できる。 テイラーやマクローリンの定理を理解し、関数のテイラー展開やマクローリン展開の計算ができる。 2変数関数のグラフ（曲面）を理解できる。 偏導関数の意味を理解し計算することができる。 合成関数の偏導関数を理解しその計算を行うことができる。 偏導関数の極値を理解し簡単な関数に対して極値を求めることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 14. 陰関数の微分を計算できる。 15. 陰関数で与えられる曲線の接線や法線が計算できる。 16. ラグランジュの乗数法が使える。 17. 無理関数・分数関数・逆三角関数の不定積分が計算できる。 18. 三角関数の分数式の不定積分が計算できる。 19. 定積分の定義や概念を理解し、値を求めることができる。 20. 区分求積法を使って、級数の極限值を求めることができる。 21. 定積分を使って、図形の面積や体積を求めることができる。 22. 定積分を使って、曲線の長さを求めることができる。 23. 広義積分の概念を理解し、値を求めることができる。 24. 積分を使って応用問題を解くことができる。 25. 重積分の定義・概念と性質を理解できる。 26. 多くの場合、重積分が累次積分に帰着されることを理解し、その値を計算で求めることができる。 27. 累次積分の順序変更ができる。 28. 重積分を用いて立体の体積を計算できる。 29. 極座標変換による重積分の計算をすることができる。
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>1変数関数の微分・2変数関数の偏微分・重積分についての基礎概念および諸定理を理解して、扱われている基本的な計算や典型的例への応用もできる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～29に関する問題を2回の間中間試験、2回の定期試験および課題の確認テストで出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。問題のレベルは教科書の問や練習問題と同等である。評価結果が百点法で60点以上の場合に目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>定期試験直前の学習のみでなく、平常時の予習・復習を大切にしてください。本教科は後に学習する数学特講Ⅰ、Ⅱや応用数学Ⅰの基礎となる教科である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>2年生で学んだ基礎的な微分積分の計算については、よく習熟していることが必要です。本教科は微分積分Ⅰ、線形代数Ⅰの学習が基礎となる教科である。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>適宜宿題を出します。</p>	
<p>教科書：「新編高専の数学3」 田代嘉宏他（森北出版）</p> <p>参考書：「新編高専の数学2，3問題集」 田代嘉宏他（森北出版），「ドリルと演習シリーズ 微分積分」TAMS 編（電気書院），「大学・高専生のための 解法演習 微分積分Ⅰ,Ⅱ」 糸岐 宣昭・三ッ廣 孝（森北出版），「新訂微分積分Ⅰ，Ⅱ」 高遠 節夫・斉藤 斉他4名（大日本図書）</p>	
<p>学業成績の評価方法および評価基準] 4回の定期試験（前期中間，前期末，後期中間，学年末）の範囲ごとの得点の平均点で評価する。ただし、各範囲の評価には小テストや課題の評価を15%含み、学年末試験を除く3回の評価で60点に達していない者に再試験や課題を課す。再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてそれぞれの試験の成績を再試験の成績で置き換え、課題については提出時に小テストで出来る事を確認の上最大15パーセントまでの不足する点を補えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
数学講究	平成24年度	堀江 太郎	3	後期	履修単位 1	必

<p>[授業のねらい]</p> <p>線形代数の復習・演習と偏微分の演習を行った後、空間内の様々な物理現象の記述に不可欠なベクトル解析の初歩を学習する。授業の進度によっては、線形代数の固有値・固有ベクトルとその応用にも触れる。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての授業の内容は、学習・教育目標 (B) <基礎>及び Jabee 基準 1 の(1)(c)に対応する。</p> <p>第1週 線形代数の復習と演習 (行列式の図形的意味)</p> <p>第2週 線形代数の復習と演習 (ベクトル, 内積, 外積)</p> <p>第3週 1変数ベクトル値関数とその導関数, 曲線と点の運動</p> <p>第4週 2変数ベクトル値関数とその微分・積分</p> <p>第5週 曲面とその法線ベクトル・接平面, 曲面積,</p> <p>第6週 ベクトル場とスカラー場,</p> <p>第7週 スカラー場の勾配 grad</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 ベクトル場の発散 div</p> <p>第10週 ベクトル場の回転 rot</p> <p>第11週 線積分の意味とその計算</p> <p>第12週 グリーンの定理</p> <p>第13週 面積分の意味とその計算</p> <p>第14週 ガウスの発散定理</p> <p>第15週 演習 (第10週から第14週までのまとめ)</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. ベクトルの内積, 外積の意味と定義を理解し, これらを計算することができる。</p> <p>2. 直線と平面の方程式の概念を理解している。</p> <p>3. 行列, 行列式の諸性質を理解し計算をすることができる。</p> <p>4. 偏微分の意味を理解し, 基本的な関数に対してその導関数を計算することができる。</p> <p>5. 1変数ベクトル値関数の導関数を求めることができる。</p>	<p>6. 曲線を表すベクトル値関数を理解しその基本量 (長さなど) をもとめることができる。</p> <p>7. 2変数ベクトル値関数の意味を理解し, その微分・積分を計算して求めることができる。</p> <p>8. grad, div, rot の概念を理解し, 計算することができる。</p> <p>9. 線積分・面積分を理解し, 計算することができる。</p> <p>10. 基本的な積分定理について理解し, これらを計算することができる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>線形代数の復習・演習を通じて活用能力を高めた後, 工学の専門科目の学習にとって不可欠なベクトル解析の基本を身に付ける。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1~10を網羅した問題からなる中間試験, 定期試験で, 目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とするが評価結果が百点法で60点以上の場合に目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] 専門分野を理解してゆくための欠くことのできない予備知識です。本教科は後に学習する数学特講 I、II や応用数学 II の基礎となる教科である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 1, 2 学年までに学んだ基本的な事柄。本教科は微分積分 I、線形代数 I の学習が基礎となる教科である。</p>	
<p>[レポート等] 適宜, レポートや課題を与える。</p>	
<p>教科書: 「応用数学」 (大日本図書)</p> <p>参考書:</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] 到達度試験の成績を評価の10パーセントとする。70パーセントを後期中間と学年末試験の平均点とし, 20パーセントをレポート課題または小テストの評価とする。また後期中間試験が60点に達しなかった者には再試験を課し, 再試験の成績が上回った場合には, 60点を上限として後期中間試験の成績を置き換えるものとする。</p>	
<p>[単位修得要件] 学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語Ⅲ	平成 24 年度	浜口 仁	3	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

英文の内容を正しく理解するためには、英文の構造を正しく把握していなければならない。そのためには語彙とともに英文法の知識の習得が必要である。

この授業の主な目標は英文法の知識を身につけることである。文型・名詞に始まり動名詞・比較・関係詞・仮定法などの文法項目に関する基礎的な知識を定着させたい。この授業で学習した英文法の基礎的知識を、今後の Reading の能力、自分の考えを英語で表現する Oral Communication 能力、そして英作文 (Written Communication) 能力などの英語運用能力を高めることに結びつけていきたい。

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標(C)<英語>と JABEE 基準 1(1)f に対応する。

前期

- 第 1 週 Introduction
- 第 2 週 文型(1)
- 第 3 週 文型(2)
- 第 4 週 名詞
- 第 5 週 冠詞
- 第 6 週 代名詞(1)
- 第 7 週 代名詞(2)
- 第 8 週 中間試験
- 第 9 週 進行形
- 第 10 週 完了形(1)
- 第 11 週 完了形(2)
- 第 12 週 助動詞(1)
- 第 13 週 助動詞(2)
- 第 14 週 態(1)
- 第 15 週 態(2)

後期

- 第 1 週 不定詞(1)
- 第 2 週 不定詞(2)
- 第 3 週 分詞(1)
- 第 4 週 分詞(2)
- 第 5 週 動名詞(1)
- 第 6 週 動名詞(2)
- 第 7 週 比較(1)
- 第 8 週 中間試験
- 第 9 週 比較(2)
- 第 10 週 関係詞(1)
- 第 11 週 関係詞(2)
- 第 12 週 仮定法(1)
- 第 13 週 仮定法(2)
- 第 14 週 復習(1)
- 第 15 週 復習(2)

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語Ⅲ(つづき)	平成 24 年度	浜口 仁	3	通年	履修単位 2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で取り上げた各文法・語法項目が理解できる。 2. 学習した文法・語法項目に基づいて short passage(短文) の内容が理解できる。 3. 学習した文法・語法項目を用いて、基本的な英文を作ることができる(英作文能力)。 4. 授業で学習した文法・語法の知識を基礎として今後の英語の運用能力を高めることに結びつけることができる(英語発信能力)。 	
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>各文法・語法項目を理解することによって英文の構造が把握でき、short passage の内容が理解できる。またこれを用いて基本的な英文をつくることができる。さらに、今後、正確に英文を読む Reading の能力の向上や、Oral Communication、Written Communication などの英語発信能力に結びつけることができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～4 の習得の度合を中間試験、期末試験により評価する。試験問題のレベルは、100 点法により 60 点以上の得点を取得した場合に目標が達成されたことが確認できるように設定する。</p> <p>授業内容がどれだけ理解されたかをチェックするために、毎授業の終わりに「復習プリント」で確認する。その確認の結果はその得点に応じて、中間試験、期末試験の得点に加点またはそれから減点する。</p> <p>必要に応じて課題を課すことがある。</p>
<p>[注意事項] 英語の学習は毎日こつこつ行うことが重要である。日頃から自主的に意欲的に予習・復習に励むこと。「復習プリント」によって授業内容の理解度をチェックするが、これだけに満足せずに日々自ら積極的に英語の学習に取り組んでほしい。</p> <p>本科目は 4 年生で学習する英語Ⅳ A および英語Ⅳ B の基礎となる。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>前年度までに学習した語彙・文法・語法知識を前提とする。</p>	
<p>[レポート等] 予習は教科書の各 Lesson の Exercise を解いてくること、また各 Lesson の Short Readings が和訳できるようにしておくこと。復習としては授業ノートを整理し、Key Sentence を自分で使えるまで定着させておくこと。</p>	
<p>教科書：Basic English Grammar with Short Readings 福井 慶一郎, 加藤 主税 編著(朝日出版社)</p> <p>参考書：特に指定しないが、前年度までの参考書類、英和辞典・和英辞典(電子辞書も可)を準備しておくこと</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>原則、中間・期末の各 2 回、計 4 回の試験の平均点に、復習プリントの評価を加味したものを最終評価とする。なお、両者の割合は定期テストの平均点 90%、復習プリントの平均点 10% とする。中間・期末試験の再試験は原則として行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で 60 点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語特講 I A	平成 2 4 年度	日下 隆司	3	前期	履修単位 1	必

<p>[授業のねらい]</p> <p>英語を介した相互理解の向上のためには、表現内容の正しい理解が前提となる。英語 I, II で学習した事項をもとに、基本的な英語構文に関する理解を深め、標準的な英語運用能力を育成する。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>内容はいずれも、学習・教育目標 (A) <視野> [JABEE 基準 1(1)(a)] および (C) <英語> [JABEE 基準 1(1)(f)] に対応する。</p> <p>第 1 週 序論 (授業の進め方, 勉強の仕方, 評価方法) プラクティス・テスト</p> <p>第 2 週 Unit 1: Transportation and Information</p> <p>第 3 週 Unit 2: Instructions and Explanations</p> <p>第 4 週 Unit 3: Eating and Drinking</p> <p>第 5 週 Unit 4: Business Scene</p> <p>第 6 週 Unit 5: Communication</p> <p>第 7 週 Unit 6: Socializing</p> <p>第 8 週 中間試験</p>	<p>第 9 週 前期中間試験返却と解答解説・復習</p> <p>第 10 週 Unit 7: Invitation</p> <p>第 11 週 Unit 8: Medical Treatment and Insurance</p> <p>第 12 週 Unit 9: Culture and Entertainment</p> <p>第 13 週 Unit 10: Shopping</p> <p>第 14 週 Unit 11: Sports and Exercise</p> <p>第 15 週 Unit 12: Trouble and Claims</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 限られた時間内で、対象となる英文を読んで内容の要点を理解することができる。</p> <p>2. 英文の流れをつかみながら、その内容を正確にできるだけ速く理解することができる。</p> <p>3. 教科書本文に出てきた文法事項が理解できる。</p>	<p>4. 教科書本文に出てきた英単語、熟語、構文の意味の理解およびその英語を書くことができる。</p> <p>5. 読んだ内容に関する英文を聴いて、その英語の意味を理解し書き取ることができる。</p> <p>6. 聴いた内容を理解し、問いに答えることができる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>既習の文法事項等を活用して、TOEIC テスト形式に準じた設問に対応することができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」 1～6 を網羅した事項を定期試験及び授業中に行われる小テスト等の結果、及びオンライン学習システムを利用した語彙テストや課題等で目標の達成度を評価する。1～6 の重みは概ね均等である。前期中間、前期末の定期試験の結果を 6 割、授業中に行われる小テストの結果及びオンライン学習システムを利用した語彙テストや課題等の評価を合わせたものを 4 割とした総合評価において 6 割以上を取得した場合を目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] 本教科は将来、実際の英語資格試験に対応するための導入授業であり、次年度『英語 IVA』『英語 IVB』の基礎となる。自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、課題等の提出、及び小テストを求めるので、日常的に英語に触れる習慣を身につけ、英語学習に努めること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 英語 I・II で身につけた英語運用能力</p>	
<p>[レポート等] 授業に関連する小テストおよび課題を課す。</p>	
<p>教科書: <i>Start-up Course for the TOEIC® Test</i> (成美堂), 『五訂版コンパクト英語構文 9 0』(数研出版), 『Cocet3300』(成美堂) その他適宜プリントを配布する。</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>求められる課題の提出をしていなければならない。前期中間、期末の 2 回の試験の平均点を 60% とし、小テスト、及びオンライン学習システムを利用した語彙テストとその他課題の評価を合わせたものを 40% とし、その合計点で評価する。ただし、前期中間試験で 60 点に達していない者には再試験を課す場合がある。その場合には、再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には、60 点を上限としてその試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。前期末試験においては、再試験を行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で 60 点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語特講Ⅰ（B）	平成24年度	松尾 江津子	3	前期	履修単位1	必

<p>[授業のねらい]</p> <p>英語Ⅰ・Ⅱで身につけた基礎学力をもとに、英語の基本構造に関する理解を深め、読解および英語表現に活用する能力を伸ばす。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標(A)＜視野＞[JABEE 基準1(1)(a)]および(C)＜英語＞[JABEE 基準1(1)(f)]に対応する。</p> <p>第1週【構文】Introduction 第2週【構文】It 中心の構文 第3週【構文】不定詞を含む構文 第4週【構文】分詞を含む構文 第5週【構文】動名詞を含む構文 第6週【構文】関係詞を含む構文 第7週【構文】否定構文 第8週 中間試験</p>	<p>第9週 【構文】助動詞を含む構文 第10週【構文】仮定法を用いた構文 第11週【構文】接続詞を含む構文 第12週【構文】比較構文 第13週【構文】譲歩構文、無生物主語を含む構文、間接疑問文 第14週【構文】強調・倒置、名詞構文・その他 第15週【構文】まとめ</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 教科書にある構文を理解し、使うことができる。 2. 教科書にある単語・熟語の意味を理解し、使うことができる。</p>	<p>3. 英語の文型を利用し、簡単な英文を作ることができる。 4. まとまった分量の英文を読み、内容を理解できる。 5. 目標達成のため自主的・継続的に学習できる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>基本的な英語構文を理解し、英語を「読む・書く」ことに活用することができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～4の確認を小テストおよび中間試験、期末試験で行う。1～4に関する重みは同じである。合計点の60%の得点で目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。 「知識・能力」5については、課題・小テストにより評価する。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>授業の予習をした上で積極的に授業に参加すること。学習した基本例文は暗唱できるようにしておくこと。 本教科は英語ⅣA、英語ⅣBと強く関連する教科である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>英語Ⅰ・Ⅱで学習した英語の単語、熟語、文法の知識。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>授業内容と関連する小テスト、および課題を課す。</p>	
<p>教科書：『コンパクト英語構文90』（数研出版）、 『理工系学生のための必修英単語3300』（成美堂） 参考書：『高校総合英語 Harvest（ハーベスト）』（桐原書店）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間、前期末試験の結果を60%、小テストおよびその他の課題評価を40%として、その合計点で評価する。ただし、中間試験で60点に達していない者には再試験を課し、再試験の成績が中間試験の成績を上回った場合には、60点を上限として試験の成績を再評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語特講 I-C	平成24年度	中井 洋生	3	前期	履修単位 1	必

<p>[授業のねらい]</p> <p>英語 I, II で学習した英語の基礎知識と技能をもとに、英語の基本構造に関する理解を徹底させ、簡単な英語を活用する能力を育成する。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべて内容は学習・教育目標(A)＜視野＞および(C)＜英語＞に対応する。</p> <p>前期</p> <p>第1週 授業概要、成績評価法の説明、it 中心の構文</p> <p>第2週 it 中心の構文</p> <p>第3週 不定詞を含む構文</p> <p>第4週 分詞を含む構文</p> <p>第5週 動名詞を含む構文</p> <p>第6週 関係詞を含む構文</p> <p>第7週 否定構文</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 試験成績の確認、助動詞を含む構文</p> <p>第10週 仮定法を用いた構文</p> <p>第11週 接続詞を含む構文</p> <p>第12週 比較構文</p> <p>第13週 譲歩構文、無生物主語を含む構文</p> <p>第14週 間接疑問・同格・強調・倒置</p> <p>第15週 名詞構文・その他</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 英語の文型を利用して簡単な英文を作ることができる。</p> <p>2. 英文の要素を理解し、文を完成させることができる。</p> <p>3. 教科書にある構文を理解し、使用できる。</p>	<p>4. 教科書にある単語・熟語の意味を理解し、使うことができる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>基本的な英語構文を理解し、英語を「読む・書く」ことに活用することができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>英語を「読む・書く」に関する「知識・能力」1～4の確認を小テストおよび中間試験、期末試験で行う。1～4に関する重みは同じである。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す</p>
<p>[注意事項]</p> <p>毎回の授業分の予習をした上で、積極的に授業に参加すること。学習した基本例文を暗唱できるようにしておくこと。</p> <p>本教科は英語IVA、英語IVBと強く関連する教科である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>英語 I, II で学習した英単語、熟語、英文法の知識。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>授業に関連する小テスト、及び課題（英作、和訳等）を課す。</p>	
<p>教科書： コンパクト英語構文90（数研出版） 理工系学生のための必修英単語3300（成美堂）</p> <p>参考書： 高校総合英語 Harvest（桐原書店）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>中間・定期試験の結果を60%、小テストの成績を20%、課題を20%として100点法で評価する。ただし、前半の成績（中間試験・小テスト・授業時・課題）が60点を達成できない場合は、それを補うための再試験・課題を課し、60点を上限として再評価し前半の成績とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語特講Ⅱ	平成24年度	中井 洋生 外国人チューター	3	後期	履修単位 1	必修

<p>[授業のねらい]</p> <p>英語の多読および多聴を通してより多彩な英語に親しむとともに、英語のみで行われる会話形式の授業を通じて、様々な場面に対応できるコミュニケーションな英語運用能力を身につけることを目的とする。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標(A)〈視野〉[JABEE基準1(1)(a)]および(C)〈英語〉[JABEE基準1(1)(f)]に対応する。</p> <p>第1週 前半ガイダンス (授業の進め方)</p> <p>第2週 【多読】Episode1, 【多聴】演習1: News(1)</p> <p>第3週 【多読】Episode1, 【多聴】演習2: News(2)</p> <p>第4週 【多読】Episode2, 【多聴】演習3: Announcement</p> <p>第5週 【多読】Episode2, 【多聴】演習4: Story</p> <p>第6週 【多読】Episode3, 【多聴】演習5: Speech</p> <p>第7週 【多読】Episode3, 【多聴】演習6: Interview</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 後半ガイダンス【会話】Unit 1 “Meeting People”</p> <p>第10週 【会話】Unit 2 “Talking About Your Daily Life”</p> <p>第11週 【会話】Unit 3 “Talking About Friends & Family”</p> <p>第12週 【会話】Unit 4 “Making Plans to Go Out”</p> <p>第13週 【会話】Unit 5 “Talking About the Weekend”</p> <p>第14週 【会話】Unit 6 “Talking About the Summer Vacation”</p> <p>第15週 【会話】Unit 7 “Making a Delicious Dish”</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. まとまった分量の英文(物語)を読み、内容を理解できる。</p> <p>2. 英語で行われる議論や討論の内容を理解できる。</p> <p>3. 英語での問いに対して簡単な英語で答えることができる。</p>	<p>4. 学習した英語表現を応用し、適切に使用することができる。</p> <p>5. 会話に出てくる文法事項が理解できる。</p> <p>6. 日本と外国における社会的違いや文化的違いを認識することができる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>英語Ⅰ・Ⅱで学習し身につけた英語の知識・技能を基礎とし、多読・多聴を通して英語に親しむとともに、会話形式の活動によって様々な場面に対応できるコミュニケーションな英語運用能力を身につけることができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～6を網羅した事項を定期試験及び授業中に行われる様々な演習や口頭テスト等の結果、及びオンライン学習システムを利用した語彙テストや課題等の結果で目標の達成度を評価する。1～6の重みは概ね均等である。後中間間までは、定期試験の結果を6割、授業中に行われる課題等を4割とし、学年末では、定期試験の結果を5割、授業中に行われる様々な演習や口頭テスト等や課題等を合わせた結果を5割とした総合評価において6割以上を取得した場合を目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] 本教科は、実社会で役立つ実的な英語運用能力を向上させるものであり、英語ⅣAおよび英語ⅣBの基礎となる。授業時間はもちろん、それ以外の時間にも自ら進んで多くの英語に触れることが望ましい。その手助けとなるよう、授業に関連した課題を課すことがあるので、提出期限を守り、計画的に学習を進めること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>英語Ⅰ・Ⅱで身につけた英語運用能力</p>	
<p>[レポート等] 授業内容と関連した課題、レポートを課すことがある。</p>	
<p>教科書: <i>Time to Communicate</i> (南雲堂)</p> <p>参考書: 『五訂版コンパクト英語構文90』(数研出版)</p> <p>『理工系学生のための必修英単語3300』(成美堂)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>後中間間までは定期試験の結果を6割、授業中に行われる課題等を4割とし、学年末までは、定期試験の結果を5割、授業中に行われる様々な演習や口頭テスト等の結果と語彙テストの結果を合わせて5割とし、その合計点で評価する。ただし、中間試験で60点に達していない者には再試験を課す場合がある。再試験を課す場合、その成績が該当する試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてその試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。学年末試験においては、再試験を行わない。</p> <p>【単位修得要件】</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育	平成24年度	森 誠護	3	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

各運動を通じて、基本的な運動能力の向上と基本的技術の習得を図る。ゲームや集団競技において協調性や個人の役割を自覚し、チームの力量に応じた練習やゲームができるようにする。余暇活動の一環として、運動を楽しみ、実践することによって活動的で豊かな生活を高め、心身の健全な発達を促す。

[授業の内容]

前期

- 第1週 スポーツテスト
- 第2週 スポーツテスト
- 第3週 バレーボール基本練習（パスワーク）
- 第4週 バレーボール基本練習（サーブ），ゲーム
- 第5週 バレーボール基本練習（スパイク），ゲーム
- 第6週 バレーボール基本練習（コンビネーション），ゲーム
- 第7週 バレーボール実技テスト
- 第8週 体育祭に振り替え
- 第9週 水泳
- 第10週 水泳
- 第11週 水泳
- 第12週 水泳
- 第13週 バレーボール（ゲーム）
- 第14週 バレーボール（ゲーム）
- 第15週 バレーボール（ゲーム）

後期

- 第1週 サッカー基本練習
- 第2週 サッカー基本練習（パスワーク），ミニゲーム
- 第3週 サッカー基本練習（ボールキープ），ミニゲーム
- 第4週 サッカー基本練習（シュート），ミニゲーム
- 第5週 サッカー基本練習（コンビネーション），ミニゲーム
- 第6週 サッカー基本練習（総復習），ミニゲーム
- 第7週 サッカー実技テスト，ミニゲーム
- 第8週 体育祭に振り替え
- 第9週 持久走，サッカー（ゲーム）
- 第10週 持久走，サッカー（ゲーム）
- 第11週 持久走，サッカー（ゲーム）
- 第12週 持久走，サッカー（ゲーム）
- 第13週 持久走，サッカー（ゲーム）
- 第14週 サッカー（ゲーム）
- 第15週 サッカー（ゲーム）

（天候不良時は、適宜指示する）

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（つづき）	平成24年度	森 誠護	3	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> バレーボールでの対人パス（オーバーハンド、アンダーハンド）とサーブができる。 バレーボールでのトス（オーバーハンド、アンダーハンド）が男子連続20回以上、女子連続15回以上できる。 自己の能力に応じた技能の習得や問題解決の努力によって個人技能を高め、意欲的に楽しくゲームに参加できる。 水泳では、3種目（クロール、平泳ぎ、背泳）の25M完泳と1種目において100M完泳ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> サッカーでは、リフティングが男子連続11回以上、女子連続6回以上できる。 サッカーでのキック（インサイド・インステップ・アウトサイドキック）で正確にボールを蹴ることができる。 チームにおける自己の能力や役割を自覚し、お互い協力してゲームに参加できる。 試合上の態度（協力・責任・公正等）や健康・安全に留意して授業に取り組むことができる。 長距離走では、自己の達成目標に向かい、記録向上を目指して意欲的に取り組むことができる。
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>自己の能力やチームの課題に適した練習やゲームを通じて個人技能や集団技能を高め、簡単な作戦を生かしたゲームができると共に、ルールを守り、積極的に運動に参加し、健康・安全について理解し体力向上を目指す態度を備えている。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>学習への意欲・向上心・自主性・問題解決への努力、個人技能（能力、習熟の程度）、集団技能（役割、能力、戦術等）を考慮して評価する。評価結果は、百点法で60点以上の場合に目標達成のレベルとする。</p>
<p>[注意事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 服装は、原則として学校指定の運動服を使用のこと。 日直は、事前に担当教官の指示を受け、クラス全員に連絡を徹底すること。 身体に障害（内臓疾患、皮膚疾患等）があり運動制限のある学生は、医師の診断書を提出し、その旨を申し出ること。 	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>バレーボール、サッカーについて、試合上のルールを事前に学習し、覚えておくこと。</p>	
<p>[自己学習]（履修単位の場合は[レポート等]）</p> <p>長期見学・欠席する学生については、レポートを提出すること。</p>	
<p>教科書：特になし</p> <p>参考書：SPORTS GUIDANCE（一橋出版）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>実技科目による評価を70点、授業に対する姿勢（学習意欲、向上心、記録成果への進展状況等）を30点として100点法で評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>上記の評価方法により60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本語教育 I A	平成 2 4 年度	熊澤 美弓	3 留学生	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

本授業の受講生である外国人留学生はすでに基本的な日常会話を習得している。しかし、実際の高専生活においてはまだまだ「言葉」や日本における生活習慣の違いに戸惑わざるを得ない状態である。社会生活及び高専生活の中では自分の意思を伝達するために、説得力のある表現技術が要求される。そこで本科目では彼らが習得してきた内容を復習、定着させ、さらに日本語で「文章を書く」、「本を読む」、「話を聞く」、「自ら話す」能力を高めることを目的とする。

[授業の内容]

前期

すべての内容は学習・教育目標 (A) の<視野><意欲>、及び (C) の<発表>に対応する。

- 第1週 「日本語教育 I A」授業の概要および学習方法
- 第2週 初級段階の総復習
- 第3週 初級段階の総復習 (1) 「話す」
- 第4週 初級段階の総復習 (2) 「読む—漢字」
- 第5週 初級段階の総復習 (3) 「読む—漢字・語彙」
- 第6週 初級段階の総復習 (4) 「書く—文法・文型の確認」
- 第7週 初級段階の総復習のまとめ
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 中級段階の学習 (1) 「聞く」
- 第10週 中級段階の学習 (2) 「聞く」
- 第11週 中級段階の学習 (3) 「聞く」
- 第12週 中級段階の学習 (4) 「聞く」
- 第13週 中級段階の学習 (5) 「聞く」
- 第14週 中級段階の学習 (6) 「友達と会話する」
- 第15週 中級段階の学習 (7) 「目上の人と会話する」

後期

第1週～15週までの内容は、すべて JABEE1, (1), (f) に相当する。

- 第1週 「日本語を学ぶ意義」の再確認。
- 第2週 中級段階の学習 (8) 「読む—文章の読解」
- 第3週 中級段階の学習 (9) 「読む—文章の読解」
- 第4週 中級段階の学習 (10) 「読む—文章の読解」
- 第5週 中級段階の学習 (11) 「書く」
- 第6週 中級段階の学習 (12) 「書く」
- 第7週 中級段階の学習 (13) 「書く」
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 「文法・文型」の学習 (1)
- 第10週 「文法・文型」の学習 (2)
- 第11週 「短文の作成」 (1)
- 第12週 「短文の作成」 (2)
- 第13週 「作文の作成」 (1)
- 第14週 「作文の作成」 (2)
- 第15週 授業の年間のまとめ

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本語教育ⅠA（つづき）	平成24年度	熊澤 美弓	3留学生	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>（「表現のよこび」） 感じたこと、考えたことを日本語で正しく表現し、日常会話への自信に繋げる。</p> <p>（「初級段階の総復習」）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「文章を書く」、「人と話す」、「本を読む」、「話を聞く」の初級段階のすべての項目について総復習する。 2. 日本語らしい発音に留意しながら、自分の意志や意見を他者に円滑に伝達する能力を養う。 <p>（「聴解力を養う」「会話の練習」）</p> <p>音声教材や実際の話者による聴解練習を通し、日本語の通常速度の会話を正確に把握する能力を身につける。会話を聞いて理解する。</p>	<p>（「本を読む」「文章を書く」）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語のテキストの文章を読み、新しく学ぶ漢字・語彙について学習し身につける。 2. 日本語の独特の表現方法を学び、正しく使う。質問された内容に正しく答える。 <p>（「文法・文型」の学習）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の現代文の文章の中から、基本的な文法や文型を学び、正しく使う。 <p>（「作文の作成」）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「作文」の作成技術の基本を学び、身近なテーマについて作文を書く。読んだ人がわかりやすい文が書けるように練習する。 <p>（「行動別の言語表現」）</p> <p>それぞれの言葉の特性を知り、実際に使う時や場合を理解しつつ、コミュニケーション能力を養う。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>感じたこと、考えたことを日本語で正しく表現する能力を身につけるとともに、他者と円滑にコミュニケーションをとる能力を養う。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」を網羅した問題を2回の中間試験、2回の定期試験とレポートで出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>学習の対象が日本語の全分野にわたるため、積極的な取り組みを期待する。授業中に疑問が生じたら直ちに質問すること。なお、本教科は、後に学習する「日本語教育ⅠB」「日本語教育Ⅱ」の基礎となる教科である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>配布するプリントについて予習すること。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>理解を助けるために、随時演習課題を与え、提出させる。</p>	
<p>教科書：プリント学習および聴解教材</p> <p>参考書：英和辞典、和英辞典、国語辞典、漢和辞典などを持参すること。</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>2回の中間試験・2回の定期試験により60%、レポート等の結果を40%として評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>定期試験、レポート等により学業成績で60点以上を修得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本語教育 I B	平成 2 4 年度	熊澤 美弓	3 留学生	後期	履修単位 1	選

〔授業のねらい〕 本授業では先の「日本語教育 I A」の学習を受けて、中級段階の実用的な日本語の習得を主目標にする。また、「表現することのよろこび」を学ぶことを柱に据え、具体的には「口頭表現力」・「聴解力」・「漢字」・「語彙」・「文法」・「作文力」をより向上させる。また、日本語能力試験 1 級取得を視野に入れた学習も行う。

〔授業の内容〕	
すべての内容は学習・教育目標 (A) の<視野>及び (C) の<発表>に対応する。	
第 1 週 「日本語教育 I B」授業の概要と学習方法	第 9 週 実用用語 (漢字・語彙) の学習 (1)
第 2 週 中級段階入門編の総復習 (1)	第 1 0 週 実用用語 (漢字・語彙) の学習 (2)
第 3 週 中級段階入門編の総復習 (2)	第 1 1 週 実用用語 (漢字・語彙) の学習 (3)
第 4 週 「話す・聞く」学習 (「自己紹介」)	第 1 2 週 文法・文型の学習
第 5 週 「話す・聞く」学習 (「日常会話」の応用)	第 1 3 週 「生活作文」学習 (1)
第 6 週 読解学習 (1)	第 1 4 週 「生活作文」学習 (2)
第 7 週 読解学習 (2)	第 1 5 週 日本語教育 I B の学習のまとめ
第 8 週 中間試験	

〔この授業で習得する「知識・能力」〕	
(「表現のよろこび」)	(「文章読解力の養成」)
1. 感じたこと、考えたことを、日本語で思う存分表現できることがすばらしいことであることを学ぶ。	1. テキストの文章を読み、新しい漢字・語彙を学ぶ。
2. 日本人特有の感情や考え方を知り、日常のコミュニケーションに役立てる。	2. テキストの文章の書き手の意図を理解する。文章を速く的確に読む。
(「口頭表現力・聴解力」の養成)	(「漢字」・「語彙」・「文法」・「作文力」の養成)
1. 日本語らしい発音に留意しながら、自分の意志や意見を他者に円滑に伝達する能力を養う。	1. 中級程度の漢字・単語・慣用句表現さらに三字熟語・四字熟語・擬態語など日本語特有の表現を習得する。
2. 「自己紹介」や「日常会話」の学習を通して、「口頭表現力」の知識と能力を身につける。	2. 作文についての基礎技術について習得する。
3. 聴解練習を通し、通常速度の会話文を正確に把握する能力を身につける。	(「生活作文」の学習)
	原稿用紙の使い方、段落の分け方を学び、身近な課題をもとに作文を発表し、書き言葉としての日本語を学ぶ。
	(日本語教育 I B の学習のまとめ)
	すべての学習を通して、日本語教育 II の学習の基礎にする。

〔この授業の達成目標〕	〔達成目標の評価方法と基準〕
感じたこと、考えたことを日本語で思う存分表現できる能力を身につけるとともに、日常のコミュニケーションを円滑に行う能力を養う。	上記の「知識・能力」を網羅した問題を 1 回の中間試験、1 回の定期試験とレポートで出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の 6 0 % の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。

〔注意事項〕 日本における実際の日常生活の中において、何事にも「積極的」、「意欲的」に取り組むように努力する。なお、本教科は後に学習する「日本語教育 II」の基礎となる教科である。

〔あらかじめ要求される基礎知識の範囲〕 実際の日常生活において、分からない言葉やことがらなどをメモしておくこと。なお、本教科は「日本語教育 I A」の学習が基礎となる教科である。

〔レポート等〕 理解を助けるために、随時演習課題を与え、提出させる。

教科書：プリント学習および聴解教材

参考書：英和辞典、和英辞典、国語辞典、漢和辞典、その他、各自の自主教材。

〔学業成績の評価方法および評価基準〕 中間試験・定期試験により 6 0 %、レポート等の結果を 4 0 % として評価する。

〔単位修得要件〕 学業成績で 6 0 点以上を取得すること。

